

子どもたちの自己肯定感を高めるために

前バルセロナ日本人学校 教諭

京都府亀岡市立詳徳中学校 教諭 久 富 哲 朗

キーワード 在外教育施設、スペイン、自己肯定感、主体的・対話的で深い学び・ICT・地域学習

赴任校の概要（2024年4月1日現在）

学校名・日本語：バルセロナ日本人学校

学校名・現地表記：Colegio Japonés de Barcelona

URL：<https://www.colegiojaponesbcn.org>

1 はじめに

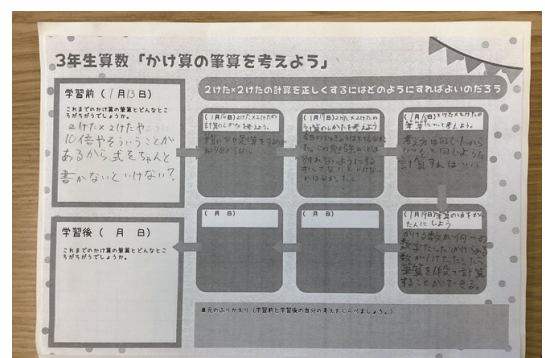
OECD（経済協力開発機構）および文部科学省等の各調査により、「自分には良いところがあると思う」や、「自分には社会を良くする力があると思う」などの、いわゆる自己肯定感を示す割合が、海外の子どもたちは高く、逆に日本は低いというデータが出ている。しかし、北米や欧州地域の日本人学校および補習授業校で行われた同様の調査では、同じ日本人であるにも関わらず、日本国内に住む子どもたちよりも高い数値が示された。このことから、子どもたちの自己肯定感は、国籍ではなく、学ぶ環境にあるのではないかと仮説を立てた。学校教育はもちろん、日本と海外の社会教育システムの違いがこのような結果を生んでいるのだとしたら、何が子どもたちの自覚や自信を生んでいるのだろうか。自己肯定感は現行学習指導要領でも重視されている「資質・能力」を根本から支えるものであり、我が国の未来にとって極めて重要な課題である。在外教育施設派遣教師として、教育改革の一助となるため、スペインの現地教育制度を学校教育と社会教育の両側面から考察し、実践を行った。

2 子どもたちの自己肯定感を高めるために

2年間の派遣任期中に得られた知見を、子どもたちの自己肯定感を高めるための考え方として、①「自己有用感」②「心理的安全性」③「地域とのつながり」の3つの視点に整理した。

(1) 「自己有用感」

2年間の派遣任期の中で、仲間の協力を得ながら数多くの研究授業と授業改善を繰り返すことができた。小中両方の授業を担当させていただいた立場を生かし、学年や教科を横断した取り組みも行った。特に自己肯定感を高める手立てとして、「ふり返りの精度向上」に焦点を当てた取り組みを行った。具体的には「OPPA評価理論」に基づき1枚のワークシートを用いて、児童生徒が毎時間のふり返りを行い、学びを進める際に目標を意識するようになった。また、学習前後の考えを比較することで、子どもたちが自らの変化や成長を認知し、学びを客観視することができれば、結果的に自らを肯定的に評価できるようになると考えた。



算数で使用したOPPAシート（一枚ワークシート）

(2) 「心理的安全性」

子どもたちが自分の気づきや学びを自由に発信・共有するためには、心理的安全性が確保された環境が必要不可欠である。そこでそれを支える教員の心理的安全性について考察した。その方策として教員研修に着目し、令和5年9月には京都府総合教育センターにも協力いただき、初任者研修を通じてこれからの時代の教員研修デザインについて、以下のようにまとめた。

①参加者の声を重視した研修デザイン

研修内容や進行を決定する際に、参加者の声を十分に取り入れることが重要である。個別最適な学びや協働的な学びを実現するために、受講者自身が興味を持ち、関わりやすいテーマを選択できるような環境を整えることを重視した。

②オンライン・対面ハイブリッド型の研修

バルセロナで働く身でありながら、京都府の初任者の先生方と交流できたことは私自身にとっても大きな財産となった。このようにインターネットを活用し、オンラインと対面のハイブリッド型研修を行うことで、時差や距離を乗り越えて多様な参加者を受け入れやすくなる。これによって、教員が柔軟かつ効果的な学びを得ることができる。これは八幡市立有都小学校や、亀岡市立亀岡中学校との合同学習（令和5年5～7月）においても、子どもたちに同様の効果を見取ることができた。

(3) 「地域とのつながり」

「スペインの教育制度と地域の役割」に焦点を当て、現地校の視察を行った。スペインの学校制度は日本と比較して、義務教育期間が1年長く、授業日数が少ない一方で、就学前教育が充実している。スペインの学校ではかつてシエスタが一般的だったが、合理化の流れで廃止され、学校から早く帰宅する傾向が広がっている。部活動がないことや体育の授業が少ないことも特徴で、個人や家族との時間が尊重され、その分、地域での習い事が充実している。これに対し、日本では長時間の練習や、学生時代に特定のスポーツに特化することが一般的である。日本の子どもたちの自己肯定感には、学校を含めた地域全体の社会教育制度や意識の違いが影響していると考え、以下のようにまとめた。

① スペインの教育システムについての考察

スペインの教育システムは、学習者中心のプログラムや協力と競争のバランス、個別化された教育が取り入れられ、生徒たちの自己肯定感を高めている。

② 海外の子どもたちの自己肯定感が高い理由

スペインを含めたヨーロッパの国々では、多様性を尊重し、柔軟な学びを提供する教育システムが自己肯定感向上の一因であると考えられている。仲間との協力やコミュニケーションが重視され、共同体としての成長が促進されている。特にスペインやドイツの社会教育や地域スポーツの制度を参考に「地域学習」についての実践し、具体的に地域をどのように教育へ巻き込むかについて考察し、以下③～⑤のようにまとめた。

③ 地域との連携の必要性と課題

地域との連携を重視することで、子どもたちにとって意味のある学びや体験を提供することができる。しかし、かつて行われてきた地域学習や職場体験は、機会均等性の観点から一部の子どもたちにとっては強制的に感じられてしまう点が課題であった。

④ 授業のゲートウェイ化

子どもたちが将来の生き方や学び方を柔軟に選択できる「マルチステージ社会」の到来に合わせ、授業をゲートウェイと位置づけ、学びを自由に選択できる環境を提案した。(下図右) これにより、子どもたちが将来のステージに向けて自らの興味や志向に合った個別最適化された経験を積むことが期待できる。

⑤ 地域との協力を通じた学び

教育者には知識社会に備え、経済的・社会的な使命を結びつける使命がある。学校と地域が連携し、子どもたちが地域との交流を通じて多様な経験を得られるように、授業のリ・デザインが必要である。これにより、地域が子どもたちの成長に寄与し、地域と学校が協力して子どもたちの自己肯定感を高める環境が築かれることができると考える。



「自分たちの住む地域の課題は何か? 地域はどうあるべきか?」日本国内の小中学校と行った合同学習。ICTを活用することで距離的・時間的制約を乗り越え、インタラクティブに「つながる」ことができた。

3 海外という特殊な環境の中で—「対話」と自分の「居場所」—

長期派遣研修で学んだことは枚挙にいとまがないが、バルセロナで得られたことの中で、最も大きなものを挙げるとしたら、「人に頼ることの大切さ」を選ぶ。海外では、仕事はもちろん全ての生活場面において、人に頼ることが多い。言葉が通じず、文化や習慣もちがう中で、外国人である私たちが自力で生活することは不可能に近い。管理職や同僚、保護者や日本人会の方々、語学講師や近隣住民に至るまで、公私に渡って、誠にたくさんの人が私に関わってくださった。同時に、私はこれまで、他者とのコミュニケーションをあまり重要視していなかったことに気が付いた。独りよがりでも他人に関わることを極力避けてきた私にとって、誰かに頼ることのハードルは決して低くはなかった。しかし、勇気を振り絞って人に頼ることで、仕事も生活も安心・充実したものとなっていった。これまでは面倒で避けてきた職場での対立も、仲間と協働し、対話による解決を諦めずに目指すことができた。そうしていくうちに、逆に人から頼られる機会も増え、「自分はここに居る良いのだ」、「自分は自分のままで良いのだ」と思えるようになった。子どもたちの自己肯定感を高めることを追究してきた2年間だったが、同時に1人の教師として、人間として、自分自身の自己肯定感を高めていることに気が付いたのである。(図1)

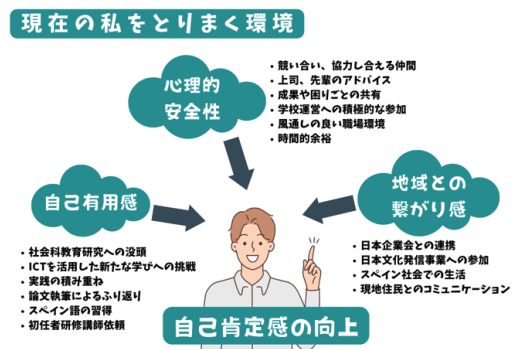


図1

4 京都府を代表して派遣された教員として

文部科学省在外教育施設教員派遣制度の意義に則り、現地教育の発展を目指して子どもたちの指導ならびにカリキュラムの改善・実施に取り組んできた。同時に、教員派遣制度はグローバル化が進む現代社会において、国際的な視野を持つ教師を育成すること、多様な環境での実践で得たものを国内へ還元することも重要な意義の一つであると捉えている。令和3年度より開始された「第二期京都府教育振興プラン」に基づき、これまでの長期派遣研修で得た知見と教育実践の蓄積を、各推進方策に沿って整理した。「変化を恐れず前向きに受け止め、人権尊重を基盤とした京都府ならではの教育を通じて、子どもから大人まですべての人々が生涯にわたって力強く歩み続け、高い志をもって、よりよい社会と幸福な人生の創り手となれる人づくり」（「第二期京都府教育振興プラン」3ページ）は、私の教育方針と派遣2年間の研修目標とも合致している。これからさらに進展するグローバル化の中であって、「京都府ならではの教育」を今後も推進していくことは、京都府を代表して派遣された私の使命であると考えている。

参考文献

- 中央教育審議会（2022）.「令和の日本型学校教育を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について」.文部科学省.
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/079/sonota/1412985_00004.htm
- 京都府教育委員会（2021）.第二期京都府教育振興プラン.京都府教育委員会.
<https://www.kyoto-be.ne.jp/soumu/cms/?p=13>
- 佐藤郡衛他.「海外で学ぶ子どもの教育—日本人学校、補習授業校の新たな挑戦—」.明石書店、2020
- 堀哲夫「新訂一枚ポートフォリオ評価OPPA」.東洋館出版社.2019
- 堀哲夫・中島雅子.「一枚ポートフォリオ評価論OPPAでつくる授業」.東洋館出版社.2022
- 熊平美香.「リフレクション自分とチームの成長を加速させる内省の技術」.ディスカヴァー・トゥエンティワン.2021